No. J2330

『中国農村での環境共生型新産業の創出：森林保全を基盤とした村づくり』

東京大学 特任准教授

菊池 真純

本書は、中国国内の四つの農村地域：貴州省畢節市黔西県素朴鎮古勝村、内モンゴル自治区阿拉善左旗・巴潤別立鎮・鉄木日烏徳嘎查（ガチャ）、山東省済南市萊蕪区雪野鎮房幹村、広西壮族自治区桂林市龍勝県龍脊棚田地域において、2007年から2023年に至るまでの調査研究の成果である。出版助成を頂いたことで、今回の出版が可能となった。

これまで、中国農村において、環境問題、あるいは環境保全に関する研究を主題として行うなかで、常に、農村における貧困問題、地域振興・発展の課題に直面してきた。環境問題と貧困問題は、それぞれが個別に存在しているわけではなく、強い関連を持つ場合が多い。しかし、それらへの対策・対処法は、併せて行うこと、同時進行で行うことが困難な場合が多いといえる。中国国内の政策をみても、詳細な課題解決のためには、環境問題と貧困問題の対応はそれぞれ別々に存在してきた。それらが一定程度の緩和・解決を経て、今日、合流する形で、農村の発展を促す方向に進んでいる。それが、豊かな自然環境、とりわけ森林資源の保全を基盤とした「中国農村での環境共生型新産業の創出」である。筆者が中国農村で調査を開始した当初は、確かに、劣悪な農村・苦しい農民・収益の低い農業という三農問題が存在した。しかし、今日、自然環境の改善が進み、振興・発展を遂げる中国農村においては、従来のいわゆる三農問題が存在してきた段階とは、明らかに異なる段階へと変化・発展していると考えられる。

本書では、四つの地域の事例をもとに、環境共生型新産業の発展に関して、それぞれの発展形態の特徴を考察し、またそこでの共通点を模索することで、理論の一般化・普遍化を目指す。さらに、従来、中国農村に存在し続けてきた環境問題と貧困問題の難題への取り組みと変化から、地域の持続可能な発展のあり方を考察した。